

令和2年度 外国語科・外国語活動実践・研究計画

| | |
|-----|--------------------------------------|
| 部 員 | ○藤田峻, 佐々木絵理子, 菅野宣衛, 佐藤秀恒, 小林葉子, 稲垣勇介 |
|-----|--------------------------------------|

| |
|---|
| 研究テーマ 仲間や言語に積極的に関わり, 外国語を用いた コミュニケーション能力を高めようとする子どもを育む学び |
|---|

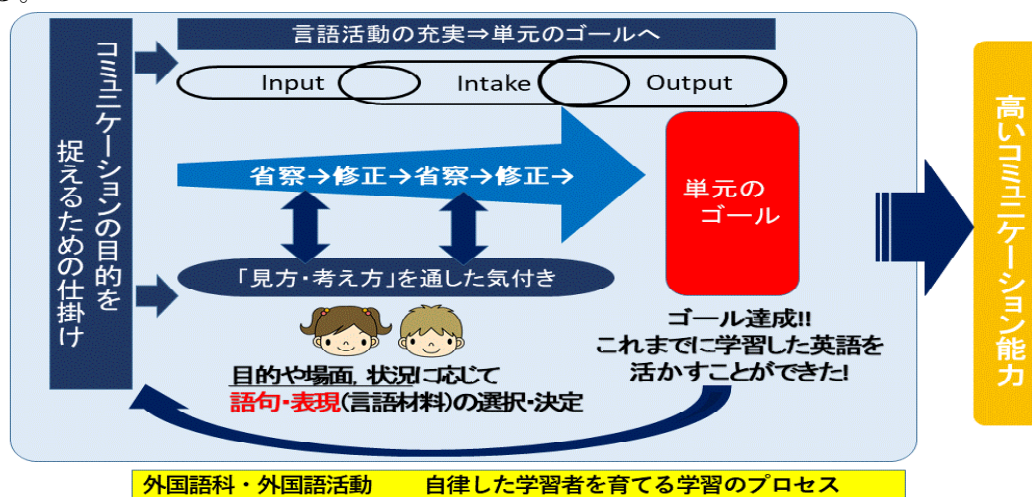
1 研究テーマについて

子どもたちが外国語を用いたコミュニケーション能力が高まったと感じたり, 成就感を味わったりすることができるのはどんなときなのだろうか。それは「相手の言っていることが分かった」「自分が伝えたいことを伝えることができた」という喜びを感じ, 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることが楽しいと思えたときではないだろうか。

外国語科・外国語活動部では研究主題の「自律した学習者」を, 必要な言語材料(語句や表現)や言語の背景にある文化や地域性などについて自ら気づき, 考え, 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図っていく子どもと捉えた。

また, 研究副題の「学びをつなぐ」とは, 積み重ねた語句や表現, 異文化理解など, 「見方・考え方」を用いた実際のコミュニケーションにおける気づきを, 自らのコミュニケーション手段として汎用的に活かしていくことと捉えている。

外国語科・外国語活動における自律した学習者を育てる学習プロセスを以下のように考える。



研究2年次である昨年度, 「仲間や言語に積極的に関わり, コミュニケーションの楽しさを味わえる子どもを育む学び」をテーマに実践を行った。タブレット型端末の録画機能を活用し, 客観的な省察の場とするための工夫として, 単元のゴールを明確に設定してきた。このことにより, 目的意識をもって活動に取り組み, コミュニケーションを行う目的や場面, 状況に応じて, 自分の考えや気持ちなどを, 主体的に伝えようとする子どもたちの姿が見られた。

その一方で, 子ども同士が英語でやり取りを行う中で, よりよいコミュニケーションに向けて, 自らの考えを修正したり膨らませたりし, 新たな変容を自覚できる省察の在り方が課題として残った。

これらの成果と課題を踏まえ, 子どもたちが仲間や言語に積極的に関わる中で, 言語材料をより豊かにし, 相手に「分かった」「伝わった」喜びを感じる体験を繰り返していく中で, コミュニケーション能力を高めようとする子どもの姿を期待し, 3年次の実践・研究を進めていく。

外国語科・外国語活動で目指す「学びをつなぎ, 資質・能力を高めていく子どもの姿」とは次のようなものである。

よりよいコミュニケーションのために必要とする「見方・考え方」を用いた気付きを、他者との関わりによって省察することを通して、言語活動を楽しみながら、コミュニケーション能力を高めようとする子どもの姿

2 研究の重点

(1) コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、自分のことを伝えるための語句や表現を選択することのできる単元構成の工夫

コミュニケーションを行う際は、その目的や場面、状況を常に意識する必要がある。その上で、言語材料を選択しながら自分の考えや気持ちなどを伝えるための表現方法を形成、再構築することが重要である。そこで、主体的に英語を用いて、コミュニケーション能力を上げていくことができるように、自分のことを伝えるための簡単な語句や、基本的な表現を選択することのできる活動の場を単元の中に位置付ける。

また、子どもがコミュニケーションを行う目的意識や、英語を学ぶ必要感をもって取り組んでいくための仕掛けとして、単元のゴールや1単位時間毎に目標となる言語材料が必然的に使われる活動の場を設定する。新出の語句や表現の練習だけではなく、実際の生活場面とつながりのある言語活動を通して、コミュニケーション能力を高めようとする子どもの姿につなげていきたい。

そして、既習の知識や経験と新たに得られた知識を相互に関連付けて、単元のゴールに迫っていくことができるような、単元構成・授業づくりの工夫をしていく。

(2) 「よりよいコミュニケーション」に向けて、語句や表現を捉え直す省察の工夫

目的や場面、状況に応じて、自分の考えや気持ちなどを相手により分かりやすく整理して伝えたり、話題を掘り下げながら会話を続けたりすることができるように、自分が選択した語句を見直し、表現の質を高めるための省察の場を意図的に設定する。そこで、単元を通して活動の中に即興的な要素を含んだ伝え合う場（シミュレーション）を多く取り入れ、コミュニケーションを行った際の伝わらない困り感や、自分が参考にできる点・改善点などを話し合うことで、子どもが必要感をもって語句を選択し直し、表現を再構築することにつなげる。

また、語句や表現を捉え直す手立てとして、既習表現を使ってどのように言い換えられるかを考える場を設けたり、新出表現を取り入れたやり取りを提示したりすることで、言語面での自らの気付きを大切にすることを目指す子どもの姿を目指したい。

3 研究・研修計画

| 時期 | 主な研究・研修行事 | 研究・研修内容 |
|------|---|--|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国語科・外国語活動部会 ・附属中学校公開研究協議会(中止) ・附属小学校公開研究協議会(中止) ・外国語研修会 ・教材研究, 授業実践 | <ul style="list-style-type: none"> ・実践・研究計画の検討 ・授業を通して重点事項の検証 ・授業づくり, 授業力向上 |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国語科・外国語活動部会 ・教材研究, 授業実践 | <ul style="list-style-type: none"> ・実践・研究のまとめ ・授業づくり, 授業力向上 |
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国語科・外国語活動部会 ・大学との共同研究 ・教材や教具の作成・整理 | <ul style="list-style-type: none"> ・実践・研究計画の立案 |

通年：年間指導計画及び資質・能力表の加除修正